

大阪大谷大学  
平成30年度 入学試験問題（一般中期）

日本史

**注意事項**

1. 問題冊子は、全部で6ページです。解答用紙は1枚です。
2. 解答用紙の所定欄に受験番号・氏名を記入してください。
3. 解答はすべて解答用紙の所定欄に記入してください。
4. 問題冊子は持ち帰ってください。

【1】 次の史料A・Bを読み、設問に答えよ。

A

冬十月、[ a ] の聖明王、……釈迦仏の①金銅像一軀、幡蓋若干、經論若干卷を献る。……（天皇）乃ち群臣に歴問して曰く、「西蕃の献れる仏の相貌端嚴し。全ら未だ曾て有ず。礼ふべきや不や」と。[ b ] 大臣稻目宿禰奏して曰さく、「西蕃の諸国、一に皆礼ふ。豊秋日本、豈独り背かむや」と。[ c ] 大連尾輿・中臣連鎌子、同じく奏して曰さく、「我が国家の、天下に王とましますは、恒に天地社稷の百八十神を以て、春夏秋冬、祭拝りたまふことを事とす。方に今改めて蕃神を拝みたまはば、恐るらくは国神の怒を致したまはむ」と。②天皇曰く、「情願ふ人稲日宿禰に付けて、試に礼ひ拝ましむべし」と。

B

③池辺の大宮に天下治しめしし天皇大御身勞づき賜ひし時、歳は丙午に次る年、④大王天皇と⑤太子とを召して誓願し賜ひ、「我が大御病大平ならむと欲坐が故に、將に寺を造りて薬師の像を作り仕へ奉らむ」と詔したまふ。然るに当時崩じ賜ひて造り堪へずありしかば、⑥小治田の大宮に天下治しめしし大王天皇及び⑦東宮聖王、大命を受け賜はりて歳は丁卯に次れる年に仕へ奉る。

<設問>

(1) 史料Aは、「仏教公伝」と呼ばれる出来事を伝える記事で、8世紀に完成した史書からの抜粋である。その史書の書名を記せ。

(2) 史料Aの書が先例となって、10世紀の初めまで、国家事業として史書の編纂が続けられ、6つの史書が成立する。その6つを総称して何と呼ぶか。

(3) 文中の空欄 [ a ] に適当な語句を下の(あ)～(え)から選び、その記号を記せ。

(あ) 高句麗 (い) 百済 (う) 新羅 (え) 魏

(4) 文中の空欄 [ b ] [ c ] に適当な語句を下の (あ) ～ (え) から選び、その記号を記せ。

(あ) 大伴 (い) 物部 (う) 蘇我 (え) 磐井

(5) 下線部①「金銅」とはどのような物質か。簡単に説明せよ。

(6) 下線部②「天皇」は誰を指すか。

(7) 史料Bは、法隆寺金堂薬師如来像の光背に記された銘文で、造像の由来を知る手がかりの一つとされる。これについて述べた下の文章を読み、文中の空欄 [ d ] ～ [ h ] に適当な語句を記せ。

史料 B には、「下線部③の天皇が病気になった丙午の年、天皇は下線部④⑤の人物を呼び、病気平癒を願って寺と薬師如来の像を作ることを命じた。ところがその事業が完遂する前に天皇が崩御されたので、⑥⑦の人物が遺詔を奉じて丁卯の年に完成した」と記されている。

③は用明天皇で、丙午は 586 年に当たる。④と⑥は同一人物を指し、敏達天皇の后で、後に即位して [ d ] 天皇となる人物である。⑤と⑦も同一人物で、用明天皇の皇子であり、[ d ] 天皇の甥に当たる [ e ] である。[ d ] 天皇と [ e ] は、大臣の [ f ] と協力して国政の改革に当たった。彼らは、行政機構を編成して国家の形を整えてゆくとともに、東アジア情勢の変化に対応するため、隋との国交を開くことを目指し、遣隋使として [ g ] を遣わした。

[ e ] の発願によると言われる法隆寺の金堂には、史料 B の銘をもつ薬師如来のほか、仏師 [ h ] の作といわれる釈迦三尊像が安置されている。

【2】次の文章Aおよび史料Bを読み、設問に答えよ。

A

江戸幕府は鎖国政策をとっていたが、将軍 [ a ] は漢訳洋書の輸入制限をゆるめるとともに、青木昆陽や野呂元丈らに西洋の言葉を学ばせるなど、洋学の受容も進んだ。なかでもいち早く受け入れられたのは医学で、前野良沢や [ b ] らが西洋医学の解剖書を訳述して [ c ] を著した。また、西洋の科学を学んだ [ d ] は、エレキテルの実験を行った。そのほか、測量技術を学んだ [ e ] は、全国をまわって実測し、『大日本沿海輿地全図』を作成した。洋書翻訳では、天文方の高橋景保の建議によって [ f ] という一局が設けられた。

その一方で、外交政策の批判などに結びつく可能性もあるため、幕府は洋学の全面的な受け入れには慎重で、①西洋人との交渉にも規制を加えていた。その結果、洋学は実学としての性格を強めることとなる。

B

②寛政四五のころより③紅毛の書を集む。蛮国は理にくはし。天文地理又は兵器あるは内外科の治療、ことに益も少なからず。されどもあるは好奇の媒となり、または④あしき事などいひ出す。さらば禁ずべしとすれど、禁ずれば猶やむべからず。況やまた益もあり。さらばその書籍など、心なきものゝ手には多く渡り侍らぬやうにはすべきなり。⑤上庫にをき侍るもしかるべし。されどよむものもなければ只虫のすと成るべし。わがかたへかひをけば世にもちらず、御用あるときも忽ち弁ずべしと、[ h ] 奉行へ談じて、舶来の蛮書かひ侍ることゝは成りにけり。

<設問>

(1) 文章Aの空欄 [ a ] ～ [ f ] に適当な語句を記せ。

(2) 下線部①に関して、持ち出し禁止の日本地図を持っていたために国外追放されたドイツ人医師は誰か。

(3) 史料Bは、ある人物の著書の一部である。下線部②「寛政」という年号や、下線部⑤「上庫」が幕府の書物蔵を意味することなどを踏まえて、著者の名を記せ。

(4) 下線部③は具体的にはどこの国を指すか。その国名を記せ。

(5) [ h ] には日本国内の地名が入る。その地名を記せ。

(6) 史料Bの著者の時代に、下線部④の行為をして処罰された人物名を記せ。

(7) 史料Bの書が著された後、下線部④の行為をした人物が処罰された事件として、蛮社の獄が知られる。そのとき処罰された人物1名とその代表的な著書名を記せ。

【3】次の文章を読み、文中の空欄〔 a 〕～〔 j 〕に適切な語句を記せ。

1905年、日本全権大使小村寿太郎はアメリカの〔 a 〕において講和条約に調印し、日露戦争が終結した。明治維新以降、「〔 b 〕強兵」をスローガンとして近代国家建設に邁進した日本は、これによって自らを「一等国」と位置付けるようになった。

条約調印の日、ロシアから賠償金が取れなかったことに不満をもつ群衆が暴徒化し、政府を支持した新聞社に放火、さらに警察と衝突する事態にいたった。これは〔 c 〕事件とよばれるが、同時代の『東京騒擾画報』は「群衆」の登場を驚きをもって伝えている。

この騒擾事件はどのような特徴をもつのだろうか。一つは、人足・車夫・職人といった都市「雑業層」が積極的に参加していることである。1899年に横山源之助が著した『日本之下層社会』が、貧困層の住環境の悪さを明らかにしているように、東京・〔 d 〕・京都・名古屋・神戸・横浜の六大都市では、明治中期以来、都市問題が叫ばれていた。騒擾事件の背景には、都市住民の生活の不満が爆発したという側面もある。

類似した事例としては、江戸時代にも大商店に町民が乱入し物品を奪い取る〔 e 〕がいくどか起きている。しかし上の事件は、新聞等のメディアが介在することで擾乱が大規模化した点や、群衆に一等国の国民という意識があった点で、大きく異なっている。

民本主義の提唱で知られる〔 f 〕はのちに、「民衆が政治上に於いて一つの勢力として動くという傾向の流行するに至った初め」として、この騒擾事件を位置付けた。その後の事例を見てみよう。

1912年、陸軍二個師団増設問題に端を発して第二次西園寺内閣が総辞職し、後継として〔 g 〕が指名されると「閥族打破・憲政擁護」を掲げた運動が広がった。これを第一次〔 h 〕運動といい、翌年2月10日にピークを迎えて騒擾事件に発展した。『萬朝報』の報じたところによれば、大勢の群衆が国会議事堂周辺に詰めかけ、「官僚派」の代議士を人力車から引きずり降ろすなどの暴動を伴いながら内閣退陣を主張、さらに群衆は各所の新聞社、交番、電車を襲い放火したという。この騒擾事件にお

いてもやはり、「雑業層」に多くの逮捕者が確認される。

1918年には、富山県の漁村における女性の行動をきっかけに、[ i ] が全国的に広がった。都市の民衆、貧農、被差別民など最終的には約 70 万人が参加、軍隊も出動して 30 人以上の死者を出す事態となった。これら一連の事件は、第一次世界大戦中の経済発展に伴って物価上昇が続き、シベリア出兵にからむ米の買い占めもあって米価が急騰したことが契機となった。同時代にすでに指摘されているように、階級意識に基づく計画的な事件ではなかったことは注意してよい。事件の責任をとる形で内閣が総辞職すると、初の本格的政党内閣である [ j ] 内閣が誕生した。

日露戦争以降、たびたび起こった都市民衆騒擾は、多分に偶発的な性格をもちながらも、秩序を動かすエネルギーとなり、大正デモクラシーといわれる時代状況の発火点ともなった。